

研究構想シート		学校名	松江市立城北小学校
		氏名	川本 めぐみ
A 研究主題 自ら学びに向かう子どもの育成（1／3） ～課題意識を継続しながら主体的に課題解決に向かう姿を目指した授業改善～			
B 研究の目的 自ら学びに向かう子どもを育成するために、課題意識を継続しながら主体的に課題解決に向かう姿を目指した授業のあり方をさぐる。			
C 子どもの実態  <ul style="list-style-type: none"> <li>・やることがわかりやすい課題や、興味のあることに意欲的に取り組むことができる。</li> <li>・ペアや少人数で話すことや友達同士で教え合うことに意欲的に取り組む。</li> <li>・全体での話し合いでは、一部の子どもに発表が偏りがちで、板書をノートに写したり、聴いていたりの子どもが多い。</li> <li>・相手に伝わるような言葉や表現で話したり、根拠を明確にして話したりする力が弱い。</li> <li>・複数の情報をもとに自分の考えをまとめて書く力が弱い。</li> <li>・一斉での指示や全体での話を自分のこととして聞くことができない。</li> <li>・自分の考えを文章や図、絵などで表す力が弱い。自信がない。</li> </ul>	E 手立て・内容（研究仮説） ①子どもが課題意識をもちながら学習に取り組めるような学習過程や活動を工夫すれば、主体的に課題解決に向かう姿につながるだろう。 →子どもの声でつなぐ授業づくりをする。課題解決に向けて、話したり書いたりして自分の考えを表出する場面を取り入れ、主体的に対話や話し合いに臨めるようにする。 →めあてや振り返り、相互評価を子どもの声で行うことで、課題意識を継続させる。 ②教科の特質に応じた見方・考え方を明確にし、教師の意図的な働きかけや視点をもった対話や話し合いをすることで、深い学びにつながるだろう。 →「深い学び」のために大切な「教科等の特質に応じた見方・考え方」とはどのようなものかについての理解を深め、発問や問い返しなどの意図的な働きかけをしたり、対話や話し合いに視点をもたせたりする。 →単元や授業の初めに、具体的な子どもの姿としての評価規準を設定し、教師が子どもに付けたい力を具体的にもつと共に、子ども自らもこの単元や時間のめあてを明確にもてるようにする。	D めざす子どもの姿 <ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問や不思議を言葉にする姿。</li> <li>・課題解決に向けて、試行錯誤しながら粘り強く取り組む姿。</li> <li>・自分の考えを話したり、文章や図、絵などを使ってかいたりする姿</li> <li>・互いの考えを伝え合い、友達の考えと自分の考えを比べたり、取り入れたり、話し合ったりしながら学びを深め合う姿。</li> <li>・課題の解決に向けて自分たちで考え取り組むことを楽しむ姿</li> </ul>	
	F 検証方法 ①子どもの様子、ノート、ワークシート等をもとに、子どもの変容を見取る。 ②教師の作成した評価規準、子どもの振り返りや子どもによる相互評価等をもとに、めあてが達成できたか評価する。 ③授業チェックシートの授業改善の視点をもとに、授業を振り返る。		
	G 研究計画 ○ 子どもが課題意識をもちながら学習に取り組めるような学習過程や活動を工夫し、今年度の目標である「課題意識をもちながら、話したりかいたりして自分の考えを表出できるような子どもの姿」を目指して授業づくりを積み重ねていく。 ○ 授業づくりにおいて、「深い学び」のために大切な「教科等の特質に応じた見方・考え方」とはどのようなものかについて研修し、理解を深める。 ○ 「一人1授業」を実施し、学年部を中心に互いに参観し合って研鑽を積んでいく。今年、学年部で力を入れて取り組みたい教科を決めて取り組めるようにする。 ○ 研究仮説を意識した授業構想ができる指導案（略案）と授業チェックシートを作成する。 ○ 授業の考察は、「課題意識の継続」というキーワードで、視点を絞って行う。良かった点や課題を次の授業に生かしていくことで、授業改善をしていく。 ○ 継続型訪問指導を申請、継続的に指導していただく。		